

小諸養護学校 ゆめゆりの丘分教室

1 「分教室」について

平成18年度に、県の「特別支援学校地域化推進モデル事業」の一環として県内で初めて、佐久穂町の佐久中学校と佐久西小学校に小諸養護学校の分教室が開室しました。平成27年度、佐久穂小中学校の統合に伴い、ゆめゆりの丘分教室も、同じ校内に小学部と中学部が隣同士の教室で生活できるようになりました。



ゆめゆりの丘分教室は、小諸の本校よりも距離的に通学しやすくなるとよい・少人数の学習環境の方が合っている・通常の学校に通う同世代の友だちと一緒に勉強したい、などのニーズに応えるためにつくられました。

小中学部は、佐久穂小中学校内に開室していますが、高等部は佐久平総合技術高等学校の臼田キャンパス内に開室しています。

2 小諸養護学校および養護学校での学習内容について

特別支援学校（養護学校）は、障がいのある児童生徒が学ぶための学校です。東信地区には小諸養護学校と上田養護学校があります。両学校とも知的障がいのある児童生徒が学んでいます。特別支援学校に通う児童生徒は、個別の指導計画、個別の教育支援計画を基に、個に応じた学習に取り組んでいます。個に応じた学習とは、通常の小学校、中学校に通う児童生徒と同じスピード、同じ内容で学習するのではなく、自分に合った内容を、自分に合った学び方とペースで学習しているということになります。

障がいに起因する困難さの改善をめざした「自立活動」を教育活動の中に適切に取り入れたり、国語、算数・数学、音楽、体育など教科の学習をその時期の生活や児童生徒の興味・関心に合わせて教材化したりした学習を行っています。各教科の学習内容を合わせた「生活単元学習」（遊びの指導や作業学習も含まれます）のように、教科や領域を合わせて学習することもあれば、教科・領域別に学習することもあります。

3 ゆめゆりの丘分教室の活動について

佐久穂小中学校には、これからの社会が目指す理想的な姿ともいうべき「共生」の環境が整いつつあります。分教室の児童生徒が、障がいがあるという特別な存在としてではなく、一緒に生活していて、そこにいることが当たり前な存在として位置づいています。

ゆめゆりの丘分教室では、本年度も「分教室で活動する良さを生かした学校生活づくり」を心掛け、同世代の友だちが生活する学校で、音楽会や運動会、樺松祭などの学校行事への参加や、給食交流や清掃交流など日常的な交流にも積極的に参加させていただいています。